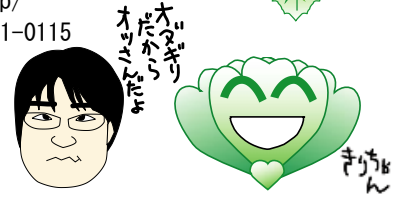






平成30年4月号（隔月発行）


札幌司法書士会 会長 里村美喜夫 編集担当責任者 番井菊世 <http://www.sihosyosi.or.jp/>
〒060-0042 札幌市中央区大通西13丁目4番地 電話 011-281-3505 FAX 011-261-0115


男女平等を考える


新年度がはじまり、「平成」もあとわずかとなりました。時代は急速に変化していると感じます。そんな中、ニュースをみていると、セクハラ・パワハラなどのハラスメント問題や、人命救助にかかわる場面で女性を排除する言動があったりと、まだまだ「男尊女卑」と思われる風潮がみられます。今回は、「男女平等」について考えてみます。


 オッさん、久しぶり！オッさんはきりばたけ制作メンバーの中の唯一の男性だね。


 司法書士業界も以前に比べて女性の比率があがってきているよ。まあ、ダイバーシティの世の中で、「女性活躍推進法」も成立して、今更「男女差別」というのも随分古い気がするけどねえ。


 とはいえ、女性に選挙権がなかったり、政治家や、特定の職業につけなかったりしていたのは、それほど昔のことではないからね。その頃の価値観の名残を捨てきれない人もいるのではないかな。昨今、その辺りが顕在化してきたように思うよ。


 むむ・・確かに、今きくといつの時代の話だよ、と思うけど、そういう価値観の世の中で育った世代の人たちもいるということだよ。法律をつくる必要があるってことは、まだ「男女平等」は実現にむけて頑張っている最中ということか。


 そうだね、「職場」「家庭生活」「結婚時の氏」「子育て」など、様々な環境の中で、男女差別が原因の根幹にあるような問題があるね。ひとつずつ考えてみようか。まず、「職場」だ。セクハラはもっての外だけど、女性が昇進・昇給しにくかったり、職種が希望通りにならないということもあるのではないだろうか。

 厚生労働省の白書によると、非正規雇用で働くのは女性の方が圧倒的に多いし、「一般労働者」のくくりで所定内給与額を比較した統計においても、女性の方が世代問わず男性の給与額を下回っているね。

 非正規雇用の比率については、働き方の選択ということも影響は多少あるかもしれないけれど、給与の差においては、「同じ仕事で給与の差」「合理的な理由がなく仕事内容の差」がないかを、経営陣や労働組合もふりかえてみてもらいたい。

 「家庭生活」では家事負担が考えられるね。日本人は清潔で真面目だから、家事負担も多い人は相当な仕事量になっているはず。得手不得手や、社会生活の違いもあるかもしれないけれど、まず「分業であって、女性がやるのが当たり前ではない」というところからスタートさせないとね。

 そうだね、仮に夫が外で働いて、妻が専業主婦として家事を行う場合であったとしても、対等な役割分担なのであって、互いに「休暇」や「感謝されること」などが必要だよ。

 「結婚時の氏」！これは、もう圧倒的に夫の氏になることが多いよね。厚生労働省の人口動態統計特殊報告「婚姻に関する統計」をみても、昭和50年から平成27年まで一度

も90%を下回らない。これほど多いと、自分もそうしなくちゃ、と思ってしまうよね。



一方で、働く女性などが自己の旧姓を使い続けたくても、まだまだ不便が多い。夫が妻の氏になるというのがまだまだ難しいのなら、やはり男女別姓という選択肢を考えていく必要がある。



「子育て」に関しては、男女の性差によって、どうしても母親に負担をかけてしまうよね。



あと、小さなお子さんをつれて外出中に、子どもがうるさい・泣き止まないなどとして他の人に怒鳴られたりするという話題をとときき聞くけど、あれもお子さんと一緒にいるのが母親じゃなくて父親でも同じように怒鳴るのかと思うことがあるね。どっちにしろ怒鳴るのは言語道断だけど（憤）。



きりちゃん、怒っているね・・・価値観が変わっていったら、男性も指摘されないと気が付かないということもあると思う。女性も差別を感じたらためらわずに発言できるような社会がいいよね。



我々の仕事である、不動産の取得や、会社の設立などでも、ここ10～20年で女性が主体になるケースが確実に増えていて、変わってきている実感はある。将来にむかって男性も女性もLGBTの人も差別されない価値観を育てていきたいね。



あと20年くらいしたら、男女差別じゃなくて人間・AI差別問題とかあったらどうしよう・・・

架空請求の今昔

国民生活センターの消費生活相談件数がピークになった2004年は、**架空請求**の流行の始まりで、相談件数の35%を占めていました。

この頃、インターネットの使用が一般的になり、インターネットを利用した名簿流通によってハガキや、メールなどで身に覚えのない請求が届くようになりました。

それまで、そのような**架空請求**をされるという経験のない私たちは、不安にさらされ、「無視する」ということも出来ずに、被害にあってしまう人が続出しました。

時代は流れ、荒唐無稽な**架空請求**に対しては「無視する」ことが当たり前になるようになりましたが、また昨今、一時姿を消していたハガキによる**架空請求**や、自分が利用しているサービスを装った巧妙な**架空請求**が現れてきました。

人は通常、他者に何かを請求をされたら何らかの行動をしなければならないと思うのですが、その請求が正当なものかどうかを見極める知恵が日常的に必要なようになってきました。

しかし、契約関係が複雑化している現代では、日常生活においても、誰に対して、何の支払い義務があるかを正確に把握するのは簡単なことではありません。

違和感を感じたら、信用できる人に確認をしたり、客観的な調査をすることが、普段の生活から習慣づけておくことが大切です。

読書感想文

『家事のしすぎが日本を滅ぼす』（光文社新書）

最近育児休暇から復職した友達が、仕事と家事の両立に悩んでいたのので、気になって読みました。私は最低限の家事しかしないので（ちなみに夫も同じレベルです。）、みんな本当にこんなに家事しているの？とびっくりでした。

家事分担を考える前に、「その家事は本当に必要なのか？」を検討して、どのご家庭でも、家事そのものを減らすことができればいいな、と思います。

編集後記

男女平等に関することは、全ての人にとって「自分事」なのでデリケートな問題ですよ。私（女性）は子供のころよく男の子に間違われ、男子ばかりの工業学部において、性別についてはニュートラルに近いと思うことがあります。私の言動を、同じ女性から叱られたこともあり、差別やセクハラについては加害者になりうる我が身を振り返って反省しております。（K. T）